

令和6年3月13日

足立区立東綾瀬小学校
校長 木村 浩昌 様

足立区立東綾瀬小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 山崎 利夫

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

- (1) 学校が何を目指して取り組んでいるのか、どんな児童を育てていくのかが具体的に表記されており、分かりやすい内容になっており、その結果、学力面、体力面、徳力面とも全体的に顕著に成果が表れていると評価できる。具体的な方策をもとに全教員が実践できた結果ではないかと思う。重点目標の「豊かな心の育成」については、教職員が大変細かいところまで、考えながら取り組んでいることが分かった。、道徳教育及び道徳の授業での取り組みを通して、児童の素直な心、何事にも一生懸命取り組む姿勢、友達相互の理解等での学年でも育ってきている。
- (2) 重点目標の「学力向上」については、「足立スタンダード」「東綾瀬スタイル」を基本とした学習の進め方が概ね身に付いていると考える。児童の落ち着いた行動が学習面にもつながり、区調査の結果が目標達成規準にも到達し、基礎学力の向上ができていることはとても良いと思う。
- (3) 小中連携の研究や校内研究を通して、教員の研究熱心な姿勢が感じ取れる。成果として、児童の学力、基本的な生活習慣や健康な体力づくりなどに表れている。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- (1) 保護者アンケートの結果から、学習環境や作品の掲示、については、プラス評価が93.5%、マイナス評価は0%であった。今後も学習環境の整備は、継続できるよう努力を続けてほしい。
- (2) 教師の話し方や説明の仕方については、「そう思う」の比率がやや下がる。児童を教師の話に集中させるためには、教師の説明や指示の仕方、声の大きさや言葉遣いはもちろん、題材や資料の提示方法などの工夫も必要である。今後、基本的な教師の話し方・伝え方のスキルアップに加え、ICT 機器の効果的な活用も視野に入れながら、次年度以降も具体的な方策を策定しつつ、取り組んでほしい。
- (3) 「児童は進んで意見を発表する」の項目では、実際に児童は授業の中での意見交換や発表は見られるものの、自己評価が低い傾向が見られる。今後も子供たちが自信をもって、発表や話し合い活動に臨めるような授業づくり、人間関係の構築を心がけてほしい。

3 その他

- (1) 児童の健全育成には、学校と保護者・地域との連携が欠かせない。三者がより良いチームワークで教育活動に取り組んでいけるよう協議会が中心となって更に働きかけていく。
- (2) 学校の教育活動への支援について、協議会はPTAと連携を深め、更に進めていく。
- (3) 地域行事への参加の機会が、新型コロナの影響もあり、減少した。大人も同様の傾向があるので、たくさんの方に参加してもらえる取り組みを地域としても考えていきたい。